

## 澁谷内閣審議官による記者ブリーフィングの概要

日時：平成26年9月10日（火）19：00～19：23

場所：合同庁舎8号館

### 【冒頭発言】

本日は最終日であるので、昨日9日の分と本日10日の分をまとめて説明する。9月9日は首席交渉官会合7日目で、市場アクセスの議論を行った。物品の関税交渉、NCM、政府調達といった広い意味での市場アクセスのバイの調整状況を各国が順番に報告した。鶴岡首席交渉官からは、日本は、ハノイで米国以外の国と協議を行い、一定の進展を見た、（昨日時点で）日米は大江首席交渉官代理が協議を行っている真っ最中だと報告した。どの国もバイは調整中であるので、具体的な話をした国はなかった。NCMは、物品の関税交渉の様子見ということもあり、早く進展させようということで、改訂オファーの催促をすることとなった。この議論を1時間半ほど行い、残りは、ハノイで処理する予定の非難航分野の宿題返しに充てられ、リーガル（法的・制度的事項）とSPSについて行われた。リーガルは、細かい論点が数個残っており、これについて議論し、各国がなるべく早く最終の返事をするべきということになった。SPSの残っている数個の論点について、内容的にはほぼ合意できたのではないかと思うが、昨日の時点では、ドラフティングが終わっていなかったこともあり、なるべく早くハノイ後のやり取りで決着をつけようという話になった。首席交渉官会合は午後1時過ぎには終わり、残りはバイの協議を行った。鶴岡首席交渉官は、数か国の首席交渉官と意見交換を行った。

本日10日は8日目であり、最終日である。9時から12時半まで行い、最初は残された課題である環境について、分科会での議論の報告があった。環境は、技術的な対立というよりは、途上国の懸念事項にどう応えるかということであり、分科会において、途上国の意見を十分汲んで、引き続き議論することとなった。最後は、知的財産の交渉官から現状の報告があった。分科会で処理すべき論点が相当残っていたが、一定程度は片付いたということだった。ただ、首席交渉官レベルで整理してほしい論点については、引き続き首席交渉官の指導を仰ぎながら調整することとなった。

ハノイ会合について、市場アクセスの協議も含めて全体を総括すると、首席交渉官レベルで集中的に協議を行い、オタワの続きの非難航分野については、論点を決着させられるものは決着し、それ以外についても、論点を相当程度絞った上で早い期限を切って議論を収斂させることとした。市場アクセスについても、大江首席交渉官代理のレベルと課長レベルの協議を行ったが、着実な前進を見ることができた。一方、難航分野については、一定の進展があったが、政治レベルで解決すべきことも含めて、まだ多くの課題が残されている。こうした問題について、今後、TPP交渉の早期決着に向けて、引き続き交渉と国内調整を加速させることとなった。今後の話だが、オタワと同様、論点ごとの宿題の締め切りといった作業スケジュールについて明確にした。一方、今後の首席交渉官や閣僚の会合のスケジュールは未定で

ある。今後の調整に委ねられた。いずれにしても、各国への宿題が各分野で出ているので、持ち帰って国内調整を行い、できるものから決着させることが大事であることが確認された。

【質疑応答】

(記者) 今後について、何らかの会合が開かれるということは合意されたか。

(澁谷審議官) そうした議論はされていない。

(記者) 首席交渉官会合は今回で終わりではないということか。

(澁谷審議官) そうだと思う。

(記者) 宿題を返す時期はいつか。

(澁谷審議官) 様々だが、早いものは来週というのがある。一番遅いものの時期を話すと、次の会合に関する憶測記事が出る恐れがあるので、控える。

(記者) 市場アクセスについては、報告だけが行われ、今後について何か決まったことはなかったということか。

(澁谷審議官) その通り。

(記者) 難航3分野については、引き続き相当程度の論点が残っているのか。

(澁谷審議官) その通り。

(記者) NCMは物品の関税交渉の様子見という話があったが、日米次第ということか。

(澁谷審議官) 物品の交渉は、日米だけが特に遅れているわけではない。

(記者) 日本が行っている関税協議の一定の進展とは何か。

(澁谷審議官) ハノイでの市場アクセス交渉の一定の進展とは、各国の関心や日本に求めるものが違う中で、各国のそれぞれの関心を丁寧に聞き、できる範囲でどうやったら日本が応えられるか、また、日本が攻めている分野もあるので、トータルとして、どういう形でお互い合意点に近づけるかという議論をし、理解が進んだという意味である。ただ、議論が終わった国はないので、引き続き協議を続けていく。

(記者) 宿題が出た分野は何か。

(澁谷審議官) 全てである。

(記者) 市場アクセスについて、共通譲許にするかどうかは。

(澁谷審議官) それについて今回は議論されていない。バイの交渉の結果が煮詰まってきたら、最終的にどのようにするか議論しないといけないだろう。

(記者) 次の会合の予定は未定とのことだが、閣僚会合の前に首席交渉官会合は行

うのか。

(澁谷審議官) 首席交渉官会合は、今回のように閣僚会合の予定なく開催する場合と、閣僚会合の直前に開催する場合とがある。

(記者) 知的財産は、閣僚案件、首席案件、事務方案件と分類していたと思うが、事務方案件は今回ひと通りクリアしたのか。

(澁谷審議官) そういうわけではない。

(記者) 残っている論点は、難しいものが多いと思うが。

(澁谷審議官) 閣僚案件は政治的に難しいということだと思うが、首席交渉官以下の案件は技術的に難しい。

(記者) 知的財産の閣僚案件にはどのようなものがあるか。

(澁谷審議官) 医薬品のデータ保護期間の扱いなど、皆さんおなじみのもの。

(記者) 大江・カトラー協議の今後の日程や進め方は、先ほどのぶら下がりのあと昼をはさんで相談するということがあったが、決まったのか。

(澁谷審議官) 決まっていない。お互い、上司に相談するというではないか。

(記者) 日米交渉について、日本は大江・カトラー協議など事務的に積み上げて閣僚に持っていくという考えだが、これについて変わりはないか。

(澁谷審議官) 甘利大臣も話しているが、事務方で相当程度論点を絞り込んで閣僚の会議をしないと、閣僚会議が実りあるものにならないと、何度も米国に伝えている。

(記者) 甘利大臣は9月中にも閣僚間で協議を行いたいと言っていたが、本日の大江首席交渉官代理の発言は厳しいものだったと思う。スケジュール感の乱れはあるか。

(澁谷審議官) 昨日と今日の大江・カトラー協議の状況を踏まえ、少なくとも事務レベルは引き続きやっていかないといけないということ。

(記者) ハノイ会合は、全体として期待通りだったのか。

(澁谷審議官) 必要なプロセスを踏んでいるということだと思う。各国とも最終段階になると、主張すべき点は主張しなければならず、あるチャプターを終わらせようと思うとどうしても気になる所が出てくるという国があるのも当然だと思う。難航分野は、一見、劇的に論点の数が減るという意味での進展ではなかったのは事実だと思うが、今回のハノイでのプロセスを経て、今後どのようなやり方で煮詰めていくのかという点について共通認識が得られたという意味では、合意に向けて必要なプロセスを踏んだということ。

(以上)